

報告事項キ

企画展「モダンアート再訪」の開催について

企画展「モダンアート再訪ーダリ、ウォーホルから草間彌生まで 福岡市美術館コレクション展」の開催について、別紙のとおり報告します。

平成30年1月25日

鳥取県教育委員会教育長 山 本 仁 志

モダンアート再訪—ダリ、ウォーホルから草間彌生まで 福岡市美術館コレクション展

開催要項

1 趣 旨

20世紀の美術は様々な美術運動の消長の歴史としてとらえることができる。エコール・ド・パリ、シュルレアリスムから一連の抽象絵画にいたるまで、主にヨーロッパで花開いたこれらの美術は広い意味でモダンアートと呼ばれ、豊かな成果を生み出した。そして第二次大戦後、その舞台はヨーロッパからアメリカに移る。巨大な抽象絵画や大量に消費される品物やイメージを用いたポップ・アート、アメリカにおいて初めて可能な表現はモダンアートの地平をさらに広げた。

一方で日本の作家によってもこれらに対応する多くの作品が制作された。パリで一世を風靡した藤田嗣治からグラフィックデザイナーとしても知られる横尾忠則まで、時にヨーロッパやアメリカで直接の影響を受け、時に独自の表現を深める中で、欧米の動向と関連をもつ一連の表現が生まれた。本来異なった文脈に育まれたこれらの作品が、たとえば人体の表現、絵画の物質性、あるいはイメージの再生といった点で多くの共通点をもつことはモダンアートの可能性を再考するにあたって興味深い視点を提起する。

21世紀に入り、20世紀の美術を再考すべき時機を迎えた現在、近現代美術の優品を所蔵する福岡市美術館のコレクションの中から選りすぐりの作品76点を紹介する展覧会を開催する。本展を通じて、モダンアートという営みを再確認し、その成果を検証することを試みる。

2 会 期 平成30年2月3日(土)～3月18日(日) 【全43日間・休館日：2月26日(月)】

3 会 場 鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室

4 主 催 鳥取県立博物館、読売新聞社、美術館連絡協議会

5 協 賛 ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、
日本通運(株)、(株)モリックスジャパン、(株)吉備総合電設、三和商事(株)

6 特別協力 福岡市美術館

7 観覧料 一般 800円(前売600円)

8 出展作品 レオナルド・フジタ《仰臥裸婦》、三岸好太郎《海と射光》、ジョアン・ミロ《ゴシック聖堂でオルガン演奏を聴いている踊り子》、サルバドール・ダリ《ポルト・リガトの聖母》、アンディ・ウォーホル《エルヴィス》を含む全76点

9 関連事業

・特別講演会Ⅰ「福岡から再訪するモダンアート」講師：山口洋三(福岡市美術館学芸員)

2月3日(土) 14:00-15:30、会場：2階講堂、定員：250名(申込不要・無料)

・トークセッション「自作を語る」

講師：柳幸典(アーティスト)、聞き手：尾崎信一郎(鳥取県立博物館副館長)

2月10日(土) 14:00-15:30、会場：2階講堂、定員：250名(申込不要・無料)

・アートセミナー「モダンアートとその外部」講師：尾崎信一郎(鳥取県立博物館副館長)

2月24日(土) 14:00-15:30、会場：2階講堂 定員：250名(申込不要・無料)

・アートセミナー「社会とアートと近代(モダン)について」

講師：赤井あずみ(鳥取県立博物館主任学芸員)

3月3日(土) 14:00-15:30 | 2階大会議室 | 30名(申込不要・無料)

・特別講演会Ⅱ「描かれた身体：自分のからだ、他者のからだ」

講師：田中正之(武蔵野美術大学教授)

3月10日(土) 14:00-15:30、会場：2階講堂、定員：250名(申込不要・無料)

・ギャラリートーク

2月17日(土)、3月17日(土) 14:00-15:00

会場：本展展示会場、定員：なし(要観覧料)

10 その他(巡回先)

埼玉県立近代美術館 平成30年4月7日(土)～5月20日(日)

広島市現代美術館 平成30年6月2日(土)～8月26日(日)

横須賀美術館 平成30年9月15日(土)～11月4日(日)

